

ジュニアプレーヤーの保護者、指導者及び応援の方にお話し

日頃は当協会及びジュニア関連事業にご協力頂き誠にありがとうございます。
さて、4月5日に開催されましたジュニア委員会に於きまして以下の事例が報告されました。

事例 1

- ・東京ジュニア選手権大会で12歳以下ダブルスの試合方法は1セットマッチだったが、周りで見ている人に8ゲームマッチと言われて試合を続行してしまった。

事例 2

- ・勝った選手がボールの判定を自分に有利にしたとして、負けた選手の保護者の方が勝った選手を直接叱責した。この試合にはソロチェアアンパイアがいましたが、オーバールールはしませんでした。

ジュニアの試合ではカウントや試合方法を忘れていたり間違ったりすることが多々あります。応援をしている方達にとっては試合中の選手に直接声を掛けたい気持ちは分かります。しかし、ジュニア選手が成長して行く過程でそういう状況になった時に自分で処理出来るよう育てて行かなければなりません。どうしても分からない場合には、ロービングアンパイアやソロチェアアンパイアに相談するよう指導をお願いします。

特にセルフジャッジの場合ボールの判定は、選手が自信を持って判定したとしても応援している人からみると違って見えることが多々あります。また、見ている角度によっても判定が逆に見えることがあります。

判定は選手同士が行うルールです。相手の判定に疑問を感じた場合はロービングアンパイアかソロチェアアンパイアに選手自身から申し出るように指導して頂くことをお願いします。

重ねてお願いします。試合中の相手の判定が違っているように見えたとしても、保護者、指導者及び応援の方は試合中は勿論のこと試合後も相手の選手を叱責することのないように強くお願いします。

平成23年4月

東京都テニス協会ジュニア委員会